（別紙4）　　平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】（2階フロア）

事業所番号	2791400076		
法人名	医療法人　神明会		
事業所名	グループホーム　ロ・スカーロあおまだに		
所在地	大阪府箕面市粟生間谷西３－５－７		
自己評価作成日	平成27年8月23日	評価結果市町村受理日	平成27年10月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町２－１－８　MIRO谷町　4階
訪問調査日	平成27年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

医療法人運営の事業所として、医療との連携を強化して、安心した生活を営んでいくことの出来る運営を心がけています。グループホームでの看取りまでの対応を行います。
地域のボランティア・学生の職場体験などを積極的に受け入れることで、地域とのかかわりを強化しながら、地域に密着した生活を続けられるよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

入居期間が長期化して、利用者の要介護度が上がるなかでも、本人本位の支援に努めている。そのために個別の具体的なサービス内容の介護計画を作成し、医師や看護師の参加も得て、毎月サービス担当者会議を開催し、支援の充実に取り組んでいる。また、音楽療法や生け花、アロマやドッグセラピーその他、多彩なボランティアの協力・交流により、利用者の暮らしに楽しみや張り合いの提供を計画的に取り組んでいる。運営推進会議に家族の参加が多く、要望や意見を支援に反映しており、スタッフの対応について家族アンケートでも好評を得ている。母体のクリニックを中心に十分な医療支援が行われ、ホームではターミナルケアに取組み、開設7年で10数名の看取りの実績がある。経験豊かな施設長、管理者はスタッフの自主性を大切にした職場環境づくりを心掛け、職員の定着率の向上に注力している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員協働で作成した事業所の理念を共有し、実践に繋げている	「寄り添い楽しく過ごせる環境作り・残存能力を発揮出来るように・利用者の意見や思いを尊重し、感情に触れ合う支援」を主旨とする事業所理念を作成し、各ユニットに掲示して、日々実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学生の受け入れ、ボランティアの積極的な受け入れを通して、地域との交流の機会を得るようにしている	ホーム周辺は自治会がなく、地域行事も少ない実情であるが、中学生の職業体験の受け入れや、多彩なボランテイア来訪による地域交流に取り組んでいる。施設長は、事業所で行う秋の文化祭に学生や近隣からの参加呼びかけを計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生の職業体験の受け入れなどを通じて、広く認知症に関する支援について発信するよう心がけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、家族、行政、地域包括支援センターの意見を聞き取り、サービスの向上に努めている	会議は行政及び地域包括の担当者、地域代表、家族、職員の参加で隔月に定期開催している。事業所の利用者の状況、運営上の報告及び、家族の要望意見、行政からの法令改正の報告などもあり双方向な会議となっている。地域代表の参加が少ないことと、知見者の参加が得られていない。	地域の住民代表には、枠を広げて参加を要請することも検討されたい。また、グループホームに知見のある者の参加も運営推進会議の要件であり、同業者による相互参加も有用な方策として期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より、運営推進会議、箕面市グループホーム連絡会などで市役所との情報交換を図るとともに、疑問点などは、市の担当職員の方に直接連絡して解決するように努めている	介護保険関係の申請代行で市の担当部署を訪問したり、運営上の相談を行い助言を得ている。市職員も出席のグループホーム連絡会に参加し、情報交換もしている。地域包括支援センターとは研修や、地域ケア会議参加等で連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠以外の項目については、身体拘束を行わないように法人全体で取り組んでいる。現状は施錠以外の身体拘束は行っていない	身体拘束のマニュアルに基づき、身体拘束廃止委員会を設け、研修を行い職員皆が共有する取り組みを行っている。各ユニット入口や玄関は施錠しているが、利用者の外出希望の様子には柔軟に対応している。	玄関は1階の通所介護の車の出入りや、表の道路の通行量が多いとの安全上の理由で施錠しているが、当面各ユニット入口の開錠による上下階移動を自由にするなどの、圧迫感解消の試みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止に関する研修会を行い、高齢者虐待のない事業所へ取り組んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長は、高齢者の権利擁護に関する研修会に参加し、その内容をスタッフに伝達している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはご本人、ご家族に対して重要事項の十分な説明を行っており、十分納得されたうえで契約を結んでいただく		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは常時意見を伺うようにしているとともに、自身で意見を言えない方に関しては、常の意見の聴取に合わせて、運営推進会議などでの意見の聴取を基に運営にいかいている	運営推進会議に家族の参加が多く、意見や要望を聞く機会となっている。面会時や介護計画見直し時、サービス担当者会議などで意向を聞き業務改善や支援に反映している。毎月の通信での行事報告や、担当職員が手書きした利用者ごとの便りも家族宛に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署の会議等の中で、職員の運営に関する意見を聞きとり、運営に生かしている	毎月のミーティング時に、利用者のカンファレンスとともに、職員の意見を反映できる機会を設けている。施設長は個人面談で意見を聞いたり、日常的にも職員から直接および、ユニットリーダーを通して、気軽に話し合える職場環境づくりに努めて、職員の定着に注力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に対し、年に2回の自己評価・面談を行い、全ての職員がやりがいを持って仕事が出来るよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修は毎月行っているが、外部研修への参加に関しては十分ではない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	箕面市のグループホーム連絡会に参加し、また主任に当たる職員の参加も促しながら、同業者との交流の場を設けている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後の利用者に関しては、生活面での不安、困りごとなどを注意深く聞き取る為に、ゆっくりと傾聴する時間をもうけ、関係づくりに努めることとしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後の初期には、ご家族には出来るだけ事業所へ訪問して頂くようにお願いし、出来るだけご家族との信頼関係を早期に構築できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より利用者、ご家族がどのような支援を求めているかを把握するように努め、入居後の安定した生活を実現できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーション・おやつ作りなどを通して、介護・利用者共に過ごし、生活できるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも、事業所での生活の中で利用者を支える一部になっていただくよう、出来るだけ事業所に訪問して頂き、スタッフとともに利用者支援の一端を担って頂けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係については、可能な人については事業所に自由に訪問して頂く事で、関係の計ぞを図って頂けるよう努めているが、十分ではないと感じている	家族の支援で正月の自宅外泊や盆の墓参りなどを行ったり、旅行仲間だった旧友の来訪がある利用者もいるが、馴染みの人との交流は減少しているので、家族の面会や、親戚との手紙のやり取りの援助を図るなどで、関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係については、席の配置の調整、仲の良い利用者同士の関係を取り持つなど、関係が安定していくよう努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの契約の終了後に関しての支援はあまり行えていないが、契約終了イコール永眠というケースが多く、支援の機会もほぼないのが現状		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを把握し、毎日の支援に生かすように努めているが、スタッフの配置状況等の都合により、十分本人本位での支援につながっていないのが現状	入居前の自宅訪問で本人・家族と話し合い、本人の思いに沿う支援を計画するるとともに、日々のケアの場で1対1で話し合える機会などを通じて、希望や意向の把握に努めている。意思の表出が困難な方には、表情や態度などから本人本位の支援を心掛けている。施設長は利用者の思いをより深く理解した支援に向けて、センター方式などのアセスメントツールの活用も検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ず自宅や入居前の居住場所に伺い、面談を行うことと、入居前の状況を良く知る人と情報交換をして、生活歴等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全員のケアカンファレンスを毎月行うとともに、毎日の申し送りの際には利用者の状況を共有して利用者の状況把握に努めている		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを行い、常に課題とケアの方針について話し合うとともに、必要に応じてカンファレンスへのご家族・看護師・医師の参加を求め、介護計画に反映している	本人・家族とのアセスメントを基に作成した介護計画を立てている。具体的な支援の実施経過を、家族・看護師・医師の参加も得て、月次でサービス担当者会議を行い、評価・分析している。支援内容の変更とともに、介護計画は定期は6か月毎及び状況変化時には随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録の記載、細かな気づきに関してはスタッフの申し送りノートを活用して、計画の見直しの資料の一部としている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所には併設事業や法人内事業もあり、利用者のニーズに合わせた支援が事業所内外から行えるようにしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は十分ではないが、入居前の地域資源の活用状況などを確認するよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	眼科・整形外科などに関しては、入居前のかかりつけ医をそのまま受診して頂き、適切な医療が受けられる支援を行っている	入居前からのかかりつけ医へ継続受診がある。また家族の同意のもと、提携医療機関である母体のクリニックによる月2回の往診は全員が受けている。協力病院への受診支援もある。歯科は毎週の口腔ケアも含めて、必要な方へ受診できる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日介護職員と事業所内看護師が連携を図り、その時に必要な医療を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関へ入院している場合は医療機関の支援員との連携・退院時のカンファレンスの開催の依頼などを十分行う事で、早期の退院と退院後の安定した支援に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合は担当医師・看護師と事業所職員で十分ご家族と話し合い、今後の支援の方向性を共有して、チームで終末期に向けたケアに取り組んでいる	看護師による24時間連携体制を築いている。重度化や看取りに対する指針を作成し、入居時に同意を得ている。重度化時には再度、医師による説明と本人・家族の同意により、希望に基づいてターミナルケアにも取組み、開設以来10名以上の利用者をホームで看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の対応に不安のある職員も少なくない状況ではあるが、看護師・施設長の24時間オンコール対応により、随時指示が出せる状況を作っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難体制に関するマニュアルを整備していると共に、避難訓練の定期的な実施を行っているが、地域との協力体制は十分取れていない	年2回防災避難訓練を実施しているが、消防署への届け出の記録の保存がない。スプリンクラー、火災報知器、通報設備、消火器等が設置され、AEDも備えている。地域連携が困難な立地のため地域との協力体制は十分ではないので、施設長は近隣の店舗との協力体制構築を検討している。	法定の防災避難訓練は、法令に基づき消防署への届け出と指導助言を得て実施し、職員の災害対応への認識強化を期待したい。近隣の店舗との、災害時の見守り等の協力要請の具体化も望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格の尊重に気を付けた声掛けを実践できるようコミュニケーションの研修会を定期的に行っており、またプライバシー保護に関する研修会も定期的に行い、実践に結びつけている	接遇、コミュニケーションのあり方、プライバシー保護に関する研修を実施して、声掛け、言葉遣い、呼称なども利用者の人格尊厳を大切にした支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、利用者の希望を聞きだし、自己決定に向けた働きかけに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先気味になって、十分なその人の希望に沿った暮らしを実現できていない部分が多い		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選定は出来る方はご本人で行ってもらう様にしている。出来ない方に関しても、スタッフがご本人と話し合ってその日の衣類を決めるなどの対応を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・後片付けの一部を利用者にお願いして、食事そのものを楽しんでいただける雰囲気づくりに取り組んでいる	食事は建物1階の厨房で、給食業者が調理している。利用者は、可能な方は、盛り付けや片付けを手伝っている。嗜好に合わせた別メニューや、きざみ食など対応して、職員は見守りや摂食の介助をゆっくりと支援している。検食以外にも、同じ食事を摂る職員もいる。月1回、行事食として松花堂弁当を楽しむ機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事摂取量に関しては常に記録を取り、状況に合わせた食事や水分摂取の支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行うと共に、訪問歯科診療との連携により、その利用者に合わせた口腔ケアの内容を常に実施できるように努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が実現できるように、必要最低限のオムツ等の使用とすることと、ポータブルトイレなどの活用で、トイレでの排泄に取り組んでいる	現在、布パンツで排泄自立の方は4名、常時おむつ着用は1名、他の利用者はリハビリパンツ・パッド併用が多い。日々の排泄パターンを記録し、把握共有して声掛け、見守り、誘導でトイレでの排泄を基本に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師や、厨房との連携の中で、便秘に対する働きかけを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんでいただける状況を出来るだけ作り、職員１人で対応してゆっくりと入浴を楽しんでいただける様に取り組んでいる	入浴は午後の時間帯で週2回以上は確保できるように取組んでいる。拒否の方には、日時やスタッフを変えたり、気分転換の工夫をして、シャワー浴対応も行いながら清潔保持に努めている。入浴時には、利用者の話を傾聴しながら会話を交わし、楽しんで入浴出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中夜間に関わらず、利用者ごとの安眠の時間をつくれるよう状況に合わせて居室やベッドへの誘導と、声掛けを実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師との連携の中で、その人の服用している薬剤の効用、副作用を理解したうえで服薬の援助を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの中で、その人の趣向にあったものの提供の実施等に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援についてはあまり実現できていないが、可能な場合はご家族の協力のもと外出の実現に努めている	桜や紅葉を楽しむ季節の行事外出を取り組んでいる。家族と外食などを楽しむ利用者もいる。近隣への散歩は、現状はスタッフの人員の関係で、週1回程度であり、施設長、管理者、職員は日常的な散歩等の外出の必要性を認識し、日課として機会確保を検討課題としている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、所持・使用の支援は行えていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、家族などへの電話の支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には、利用者と共に作成した季節感のあるものの展示などに努め、居心地の良い空間になるように努めている	エレベーターホールの戸を開けると、両翼に廊下を挟んで居室、浴室、トイレ等が配置され、廊下奥に非常階段がある。中央部に田畑の緑が見渡せる南面のサッシ窓からの日差しが明るい食堂と台所、テレビ、ソファーを置いた居場所がある。壁には手づくりの貼り絵や写真等が飾られている。見守りや支援の動線も機能的で、利用者が夫々利便性や居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に、その人が一番落ち着いて過ごせる場所を探し、空間の提供に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には出来るだけ入居前に使い慣れたものを配置して頂いたり、趣味活動によるものの展示等で、出来るだけ居心地の良い居室数館になるよう努めている	居室にはエアコン、ベッド、ナースコール、カーテン、クローゼット、洗面台が設置されている。居室から田園や山の緑が眺められ、掃き出し窓の外には避難可能なベランダがある。各自、使い慣れた家具や好みの飾り物、写真、生け花等を飾っている。入口の引き戸には居室が分かりやすいように名前や写真を大きく張るなどの工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境面でも出来る限り自立した生活を実現するために、部屋やトイレなどにわかりやすい掲示をするなどの工夫をしている		